

NIE全国大会神戸大会最終日の1日は、神戸市内で、新聞を活用する兵庫県内の小中学校による公開授業や実践発表があった。灘中学校・高校（神戸市東灘区）の池田拓也教諭と狩野ゆき司書教諭は新聞データベースの活用状況を報告し「新聞に載っているかも、と考えることが大事。社会課題を考えるツールになる」と呼びかけた。

中学3年の公民科では、地域のNPO法人に活動や課題についてインタビューし、グループで地域課題の問いを立て、解決策を発表する授業を2019年から実施。地域課題のテーマを深掘りする際に、背景にある知識を得るために新聞の情報を活用している。

同校では13年度から朝日新聞の「朝日けんさくくん」、17年度から読売新聞の「ヨミタススクール」といった児童生徒向けオンライン記事データベースサービスと契約。ただ、身近な地域ニュースが豊富な

社会課題考えるツール

新聞データベースを活用する利点を発表する
灘中学校・高校の池田拓也教諭（1日、神戸市）



地元紙の神戸新聞は図書館にある紙の新聞のみで、手に取る生徒はほとんどいなかった。授業に使う際は司書教諭らが関連記事を探して生徒に渡し、状況改善に向け昨年11月から同社のデータベースを

生徒の検索環境整備を

1年間、試験的に導入している。

池田教諭は、新聞のアーカイブ機能は「新聞社が培った価値で、見出しの大きさをレイアウトを見るだけで時代の空気感も伝わらる。生徒と社会をつなぐ述べた。

「News Picks（ニュースピックス）」を非公開の学校専用空間で使えるサービスを取り入れ、生徒が関連記事を検索してグループで共有したり、感想を書き込んだりしている。紹介し「安心して情報をシェアできる場をつくる工夫も大切だ」と述べた。

愛媛新聞社は小中学生向け教育専用ウェブサイト「愛媛新聞 for スタディ（@スタ）」の正式（有料）版でデータベースの過去にも活用してほしい」としている。

愛媛新聞データベースには、個人や団体向け月額プランもある。

県内実践校教員の声

考えるくせつけて



新居浜西高校

大熊峻矢教諭

今後求められるのは批判的思考力。フィルターバブ

ルに気付いていない生徒は多いと思う。ネット上の情報をそのままにせず、考えるくせをつけさせたい。校正された活字を読む大切さも感じた。新聞業界と教育現場の連携が子どもの成長にもつながると思う。

狩野教諭は情報リテラシー取得が目的の「探究基礎」の授業でも新聞データベースを活用。3社のデータベースは独立し、検索手法も異なるため一括で横断検索できず、記事と比較しにくい点を課題に挙げた。

「新聞活用が日常的になるには学校図書館が必要」と強調。同校では専任の司書教諭2人が常時在館して授業支援に入るほか、生徒やOBが掲載された新聞の掲示や新聞の貸し出しにも対応しており、専任職員が必要にも言及した。

リアルタイムの事象を知れる副読本として、米作りの授業で米価高騰について検索したり、修学旅行前の平和学習で松山市内の空襲被害を調べたり、社会科や総合的な学習の時間を中心に活用されている。

記事検索を提供している。児童生徒の学習用端末から、1992年5月以降掲載の愛媛新聞社の取材記事や通信社配信の全国ニュースが検索でき、紙面切り抜きも見ることができ